

1 **Q6** 人権教育の充実を目指した教育課程の編成をする際、どのようなことに留意すればよいですか。

5 **A** 教育課程の編成に際しては、人権教育が全ての教育活動を通して組織的に推進されることが大切であり、次の点に留意する必要があります。

【人権教育の充実を目指した教育課程の編成】

10 人権教育は各教科等（各教科、道徳、総合的学習の時間及び特別活動等）や、それ以外の活動（生徒指導、教育相談、進路指導等）のそれぞれの特質を踏まえ、教育活動全体を通じてこれを推進していくことが大切です。

その展開の際には「人権教育の目標と各教科等の目標やねらいとの関連を明確にした上で、人権に関する意識・態度、実践力を養う人権教育の活動と、それぞれの目標・ねらいに基づく各教科等の指導とが、有機的・相乗的に効果を上げられるようにしていくことが重要」（在り方編P11）であり、教育課程の編成にあたっては次の点に留意する必要があります（在り方編P12）。

15 【教育課程の編成に当たっての留意点】

1 「地域の教育力」を活用する

各教科等の特質に応じて、地域のひと・もの・ことや施設等、地域の教育力を計画的・効果的に活用して、教育活動全体を通して人権教育を推進する。

20 県内においても「人権・同和教育」や「ふるさと教育」等で「地域の教育力」を活用した取組が多くみられます。県内のある小学校は、地域の人たちとの豊かなふれあい体験の成果を次のように報告しています。

25 「人と身近に話したり肌のぬくもりを感じたりするふれあい体験は、その人柄や生き方にふれ、人の温かさや大切に気づくものであった。子どもたちの心に深く響く感動体験であった。そして、その感動体験を振り返って言葉に表現することによって、体験は子どもたち一人一人の心に根付くものとなり、人に伝える『伝え合い』の作業を通して、子どもたちの自尊感情を高めることにつながった。」「子どもたちがふれあい体験や交流活動を通して、自然な関わりの中で思いやりのある言葉かけや行動が意識せずに行えるようになってきている。」

2 「体験的な活動」を取り入れる

30 フィールドワークなどの体験活動を積極的に活用して、人権についての「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」を育て、人権感覚を育成する。

「体験的な活動」については、Q10参照。

3 学習形態、教育方法上の工夫を行う

35 児童生徒の実態を踏まえ、人権教育の目的に応じて、計画的に、一斉学習・グループ学習・個別学習などの学習形態の工夫を行う。また、目的・内容に応じて、授業担当教員とゲストティーチャー（地域人材等）とのチーム・ティーチングを取り入れたり、コンピュータなどの情報機器を活用したりするなど、指導形態・方法の工夫を行う。

県内においても「人権・同和教育」等で学習形態、教育方法上の様々な工夫がみられます。県内のある中学校は、ペア学習・グループ学習に積極的に取り組み、その成果を次のように報告しています。

「自分の気持ちを受けとめてもらっていることを実感でき、他者の発言や行動を肯定的に受け入れる気持ちが育ってきている。」「グループで人権・同和問題を解決策まで話し合うことができた。」

4 「生き方学習」や進路指導と関わらせる

学級活動やホームルーム活動などでの人間としての在り方生き方についての自覚を深める学習や、進路指導の機会等を通して長期的・広域的視野から人権教育を推進する。

人権教育と進路指導・キャリア教育の関係は、Q15参照。

ふりかえり

留意点1～4のうち、あなたはどのようなことに取り組んでいますか。または、取り組めばよいと考えますか。